一 各省官制通則中改正ノ件
一 厚生省官制

一 保險院官制
一 內務省官制中改正ノ件

一 遞信省官制中改正ノ件
一 奏任文官特別任用令中改正ノ件

一 判任文官特別任用令中改正ノ件
一 工場法施行令中改正ノ件

一 產婆規則中改正ノ件
一 日本國ノ「ヴイエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約ノ效力延長ニ關スル議定書署名ノ件

樞密院會議筆記

Proj. No. 199
S. A. No. 15042
Sack No.
Item No. 14-2

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

昭和十二年十二月二十九日(水曜日)午前十時十分開議

聖上臨御

出席員

平沼議長

荒井副議長

大臣

廣田外務大臣　六番

米内海軍大臣　七番

極密院

枢密院

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

鹽野司法大臣　八番
杉山陸軍大臣　九番
永井遞信大臣　十番
賀屋大藏大臣　十一番
有馬農林大臣　十二番
吉野商工大臣　十三番
中島鐵道大臣　十四番
大谷拓務大臣　十五番
木戸文部大臣　十六番
末次內務大臣　十七番

顧問官

櫻井顧問官　廿一番
河合顧問官　廿二番
鈴木貫太郎顧問官　廿三番
有馬顧問官　廿五番
原　顧問官　廿六番
窪田顧問官　廿七番
鈴木(莊六)顧問官　廿九番
石塚顧問官　三十番
清水顧問官　卅一番

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

藤澤顧問官　卅二番
林　顧問官　卅三番
南　顧問官　卅五番
田中顧問官　卅六番
奈良顧問官　卅七番
荒木顧問官　卅八番

闕席員

皇族

雍仁親王　一番
宣仁親王　二番
崇仁親王　三番
載仁親王　四番

大臣

近衛内閣總理大臣　五番

顧問官

金子顧問官　十九番
黑田顧問官　二十番
石井顧問官　廿四番
元田顧問官　廿八番
上山顧問官　卅四番

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

委員

船田法制局長官
森山法制局參事官
樋貝法制局參事官
以上各件二付
羽生內務次官
挾間內務省衛生局長
大村社會局長官
伊東文部次官
村瀨商工次官
小金商工省鑛山局長
後藤商工省保險局長
平澤遞信次官
伊勢谷簡易保險局長
生田簡易保險局理事
以上各省官制通則中改正ノ件外八件二付
井上外務省歐亞局長
三谷外務省條約局長
加瀨外務書記官

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

井野農林次官

三宅農林省水産局長

以上日本國ソヴィエト社會主義共和國聯邦間漁業條約ノ效力延長ニ關スル議定書署名ノ件ニ付

報告員

荒井審査委員長

各省官制通則中改正ノ件外八件ニ付

村上書記官長

日本國ソヴィエト社會主義共和國聯邦間漁業條約ノ效力延長ニ關スル議定書署名ノ件ニ付

書記官

堀江書記官

武藤書記官

極密院

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

議長（平沼）　之ヲリ會議ヲ開ク

各省官制通則中改正ノ件

厚生省官制

保險院官制

內務省官制中改正ノ件

遞信省官制中改正ノ件

奏任文官特別任用令中改正ノ件

判任文官特別任用令中改正ノ件

工場法施行令中改正ノ件

産婆規則中改正ノ件

樞密院

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

以上九件ヲ一括シテ議題ニ供ス第一讀會ヲ開キ朗讀ヲ省略シテ直ニ審査委員長ノ報告ヲ求ム

報告員（荒井）　今回御諮詢ノ各省官制通則中改正ノ件、厚生省官制、保險院官制、内務省官制中改正ノ件、遞信省官制中改正ノ件、奏任文官特別任用令中改正ノ件、判任文官特別任用令中改正ノ件、工場法施行令中改正ノ件及産婆規則中改正ノ件ニ付本官等審査委員タルノ命ヲ受ケ本月十日以降數次委員會ヲ開キ國務大臣及關係諸官ノ辯明ヲ聽キテ之ガ査覈ヲ遂ゲタリ

當局大臣ノ説明ニ依レバ凡ソ國民一般ノ健康ノ増進及體力ノ向上ヲ圖リ以テ其ノ神身ノ活動力ヲ充實スルハ産業、經濟、國防其ノ他各般施政ノ根本義ニ屬シ固ヨリ國家百年ノ大計ナリ然ルニ從前此ノ部面ニ於ケル行政及施設未ダ必ズシモ充分ナラズ加フルニ輓近一般ニ國民體位ノ低下ト認ムベキ事實アリ今ニ於テ迅速且徹底的ニ國民保健ノ行政

及施設ノ刷新擴充ヲ計ルハ洵ニ當面ノ急務ナリトス而シテ國民ノ健康ノ增進及體力ノ向上ニ對スル障礙ハ其ノ日常生活ニ幾多不合理ナルモノアルニ由來スル所少カラザルガ故ニ國民ノ健康ヲ增進シ體力ヲ向上セシムルニハ單ニ直接之ニ關スル諸方策ヲ充實スルノミヲ以テ足レリトセズ廣ク國民ノ日常生活ヲ改善シ之ヲ合理化シテ其ノ福祉ヲ增加スベキ有效適切ナル幾多ノ方策ヲ實施スルヲ要ス然ルニ從前此ノ方面ニ於ケル行政ハ數省ノ主管ニ分屬シ其ノ機構必ズシモ適切ナラズ事務ノ能率亦必ズシモ良好ナラザルモノアリ乃チ內閣ニ於テハ此ノ際行政機構ニ相當ノ改正ヲ加ヘテ事務ノ強化刷新ヲ計ルノ必要ヲ認メ本年七月其ノ議ヲ定メ之ニ要スル經費ニ付テハ第七十一回帝國議會ノ協贊ヲ經テ其ノ豫算成立シタルニ尋デ今次ノ支那事變勃發シ非常ノ事局ニ直面シタルニ由リ姑ク之ガ實行ヲ猶豫シタルモ事變中ニ於ケル銃後ノ諸施設及事變後復員計

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

畫ニ伴フ諸施設ニ付テハ之ヲ擴充徹底スル爲メ國民ノ保健及福祉ノ兩方面ニ亘リテ幾多ノ措置ヲ實現セザルベカラザルガ故ニ寧ロ速ニ右ノ改革ヲ實施スルヲ刻下ノ要務ナリトシ茲ニ本院ノ詢議ニ付セラレタル勅令案其ノ他數多ノ關係勅令案ノ御裁可ヲ奏請スルニ到リシモノニシテ此ノ改革ノ眼目ハ厚生省ナル一省及其ノ外局タル保險院ヲ新設シ之ヲシテ從前內務省衞生局及同省所管社會局ニ於テ管掌セル事務ノ全部、文部省ニ於テ管掌セル體育運動及衞生ニ關スル事務中學校以外ニ於ケル體育運動及衞生ニ關スルモノ、商工省ニ於テ管掌セル鑛業警察ニ關スル事務中鑛山ニ於ケル勞働衞生ニ關スルモノ竝ニ遞信省所管簡易保險局ニ於テ管掌セル簡易生命保險及郵便年金ニ關スル事務ノ中樞的ナル部分ヲ統合管掌セシメ以テ國民ノ保健及福祉ニ關スル行政ノ擴充刷新ヲ計リ益々國民生活ノ安定ニ資セントスルニ在リ本案合計九件ノ勅令案ハ厚生省官制及

枢密院 密 院

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

保險院官制ヲ中心トシ其ノ他ハ孰レモ之ニ關聯セル官制、任用規程等ノ一部ノ改正ニ屬スルモノニシテ今其ノ各件ノ要旨ヲ逐次摘述スレバ左ノ如シ

第一　各省官制通則中改正ノ件

今回厚生省ヲ新設スルニ付各省官制通則第一條ニ列記シテ同則ノ適用ヲ受クルモノトセル各省中ニ厚生省ヲ追加ス

第二　厚生省官制

(一)厚生大臣ハ國民保健、社會事業及勞働ニ關スル事務ヲ管理スルモノトシ(二)厚生省ニ體力、衛生、豫防、社會及勞働ノ五局ヲ置キ體力局ニ於テハ體力向上ノ企畫及施設、體力調査、體育運動竝ニ姙産婦乳幼兒及兒童ノ衛生ニ關スル事項ヲ掌ラシメ衛生局ニ於テハ衣食住ノ衛生、衛生指導、醫事及藥事竝ニ其ノ他國民保健ニ關スル事項ヲ掌ラシメ豫防局ニ於テハ傳染病地方病其ノ他ノ疾病ノ豫防、檢疫、精神病及民族衛生ニ關スル事項ヲ掌ラシメ社會局ニ於テハ社會

福利施設、救護及救療、軍事扶助、母子及兒童ノ保護、其ノ他ノ社會事業竝ニ職業ノ紹介其ノ他勞務ノ需給ニ關スル事項ヲ掌ラシメ勞働局ニ於テハ勞働條件、工場及鑛山ニ於ケル勞働衛生、國際勞働事務ノ統轄竝ニ其ノ他勞働ニ關スル事項ヲ掌ラシメ(三)同省職員ニハ各省官制通則ニ揭ゲタル大臣、政務次官、次官、參與官、局長、祕書官、書記官及屬ノ外勞働局ノ局務ニ參與セシムル爲メ勞働局參與十五人以内ヲ置キ厚生大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命シ書記官ノ專任定員ヲ十六人、屬ノ專任定員ヲ百二十一人トシ事務官、理事官、技師、體育官、技手及體育官補各專任若干人ヲ置キテ省務ニ從事セシメ工場監督官、鑛務監督官及調停官ヲ置キ書記官、事務官、理事官又ハ技師ヲ以テ之ニ充テ工場監督官補、鑛務監督官補及調停官補ヲ置キ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充テ各當該事務ニ從事セシムルコトトシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(四)從前ノ社會局官制ハ之ヲ廢止ス

第三　保險院官制

(一)保險院ハ厚生大臣ノ管理ニ屬シ健康保險勞働者災害扶助責任保險其ノ他ノ社會保險、簡易生命保險及郵便年金、此等ノ各種保險ノ制度ノ企畫竝ニ被保險者保健施設ノ企畫及統轄ニ關スル事項ヲ掌ルモノトシ

(二)同院ニ長官、局長三人、理事專任一人以下書記官、事務官、理事官、簡易保險事務官、技師、屬、簡易保險書記、技手、簡易保險書記補及保健技師ヲ置キ

(三)同院ニ總務、社會保險及簡易保險ノ三局ヲ置キテ院務ヲ分掌セシメ厚生大臣ハ簡易保險局ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ必要ト認ムル地ニ其ノ支局ヲ設クルコトヲ得ルモノトシ

(四)長官以下ノ常務職員ノ職務權限ヲ定メ

(五)從前ノ簡易保險局官制ハ之ヲ廢止ス

第四　內務省官制中改正ノ件

從前ノ內務省衞生局ノ所掌事務ハ總テ之ヲ新設ノ厚生省ニ移管スルニ付內務大臣

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ所管中衛生ニ關スル事項ヲ削除シ同省衛生局ヲ廢止シ同省職員中局長一人並ニ書記官、事務官、理事官、技師、屬及技手各若干人ヲ減員ス

第五　遞信省官制中改正ノ件

簡易生命保險及郵便年金ニ關スル事務ハ之ヲ新設ノ保險院ニ移管スルモ地方ノ遞信局及郵便局ニ於ケル該事務ノ取扱ニ付テハ別ニ變更ヲ加フルコトナク從テ其ノ部分ハ依然之ヲ遞信省ノ所管トスベキガ故ニ遞信大臣ノ權限中ニ遞信局及郵便局ニ於テ掌ル簡易生命保險及郵便年金ニ關スル事務ヲ管理スルコトヲ追加シ其ノ事務ノ爲メ同省ニ管理局ナル一局ヲ新設シ從前大臣官房ニ於テ掌理シタル從事員ノ保健及養成ニ關スル事項ヲ同局ヲシテ併セ掌ラシメ從前ノ簡易保險局職員ノ一部ヲ引繼ギテ右ノ管理局ノ職員トスル爲メ局長一人ノ外書記官、事務官、屬及技手各若干人ヲ增員ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第六　奏任文官特別任用令中改正ノ件

第七　判任文官特別任用令中改正ノ件

厚生省及保險院ノ設置並ニ社會局及簡易保險局ノ廢止其ノ他前述ノ官制改正ノ結果此ノ二勅令ノ現行規定ニ掲ゲタル社會局理事官、簡易保險局事務官及簡易保險局書記補ハ廢セラレテ厚生理事官、保險院理事官、保險院簡易保險事務官及保險院簡易保險書記補之ニ代リ又傷兵院事務官、國立癩療養所事務官及國立結核療養所事務官

ハ内務省ノ所屬ヨリ厚生省ノ所屬ニ移替スベキニ由リ右二勅令ノ現行規定ニ相當ノ整理ヲ加フ

第八　工場法施行令中改正ノ件

第九　産婆規則中改正ノ件

前述ノ官制改正ニ伴ヒ此ノ二勅令ニ定メタル内務大臣ノ所掌事務ハ之ヲ厚生大臣ノ所掌ニ移替スベキニ由リ其ノ現行規定ニ此ノ趣旨ノ整理ヲ加フ

按ズルニ國民ノ體位ヲ向上セシメ其ノ福祉

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ増進スル爲メニ有效適切ナル各般ノ施設ヲ爲スハ固ヨリ行政ノ要務ニシテ殊ニ現時ノ情勢ニ於テ其ノ必要一層緊切ナルモノアリ乃チ其ノ事務ノ效果ヲ更ニ良好ナラシムベク其ノ行政ノ機構ニ相當ノ改善ヲ加フルハ敢テ不可ナリトセズ唯之ガ爲メ新機關ヲ設ケテ多年既設ノ機關ニ於テ管理シ來リタル事務ヲ之ニ移管スルノ當否ニ付テハ稍々論議ノ餘地ナキニアラザルベシト雖當局ガ方今ノ事態ニ顧ミ有カナル機關ヲ新設シテ關係事務ヲ統合掌理セシメ面目ヲ一新シテ機能ヲ強化セントスルノ趣旨ハ之ヲ諒トスルヲ妨ゲズ乃チ本案厚生省官制及保險院官制ハ其ノ主意ニ於テ之ヲ是認スベク其ノ條項ニ至リテハ特ニ指摘スベキ廉ヲ認メズ本案爾餘ノ諸件ハ孰レモ右二官制ニ牽聯附帶スルモノニシテ該官制ヲ承認スル以上併セテ之ヲ承認スルヲ當然トス然レドモ(一)新設ノ厚生省ノ所管トスル事務ハ概ネ内務省所管ノ一般警察ノ事務ト密接ナル關繫ヲ有シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

地方ニ在リテハ府縣廳其ノ他ノ地方廳ノ所掌ニ屬スルモノナルガ故ニ今後之ヲ新省ニ移替スルニ於テハ内務省及地方廳トノ間ノ協調ヲ善クシ苟クモ齟齬ヲ生ゼザルコトヲ期セザルベカラズ(二)又新設ノ保險院ノ所管トスル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ハ其ノ創始以降總テ之ヲ遞信省及同省部内ノ官署ニ於テ管掌シ極メテ順調ニ發達シ來レル沿革アリ且今回ノ官制改正ニ依ルモ其ノ事務ノ一半ハ依然遞信省及同省部内ノ官署ニ保留セラルルガ故ニ將來簡易生命保險及郵便年金ノ業務ノ運用ニ付テハ是レ亦當該官廳ノ間ノ連絡ヲ良クシ聊カモ干格ヲ生ゼザルコトヲ期セザルベカラズ關係當局ニ於テ特ニ此ノ二點ニ關シ深甚ナル注意ヲ拂ヒ以テ新制ノ效果ヲ發揚スルニ遺憾ナキヲ念トセンコト本官等ノ切ニ希望スル所ナリ仍テ審査委員會ニ於テハ本案各件ハ總テ原案ノ通リ可決セラレ然ルベキ旨此ノ希望事項ト共ニ全會一致ヲ以テ議決シタリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

右審査ノ結果ヲ報告ス

三十一番（清水）　總理大臣ハ本日御出席ナキ故外務大臣ニ御訊シタシ樞密院官制ニ依レバ各大臣ハ職權上ヨリ樞密院ニ於テ顧問官タルノ地位ヲ有シ議席ニ列シ表決ノ權ヲ有ストアルニ由リ大臣ノ數ヲ增加スル際ハ常ニ樞密顧問官ノ定員數トノ權衡如何ヲ考慮セザルベカラズト考フ樞密顧問官ノ現在ノ定員ハ二十四名ニシテ該定員ノ規定セラレタル當時ノ大臣ノ數ハ十名ニシテ其ノ後三名增員セラレタルガ今次ノ新設省ノ長官タル大臣ヲ加フレバ合計四名ノ增員トナルニ拘ラズ顧問官ノ定員數ハ依然トシテ從來ノ通ナリ而シテ樞密院會議ニ通常出席セラルル顧問官ハ十五六名ニ過ギズ蓋シ顧問官ノ平均年齡ハ通例七十四五歳ナルヲ以テ寒暑ノ時季等ニ於テ闕席者ノ多キハ亦已ムヲ得ザル所ナルベシ之ヲ以テ大臣ノ數ヲ增加スルニ際シテハ一層顧問官ノ數トノ權衡如何ニ付考慮ヲ加フルノ要アリト謂ハザルベカラ

樞密院

ズ内閣ニ於テハ今次新省ヲ増設セントスル
ニ際シ當然此ノ點ニ付テモ考慮セラレタル
コトト思惟スルモ事實果シテ如何ニヤ念ノ
爲メ伺ヒタシ

委員（船田）　總理大臣闕席故便宜本員ヨリ御答
スベシ清水顧問官ノ御説ハ御尤ナルモ政府
ノ方針トシテ最初ヨリ各方面トノ摩擦ヲ少
クセンコトヲ努メツツアリ顧問官ノ増員ニ
付テハ目下考慮セズ併シ樞密院會議ニ於テ
大臣ガ數ニ於テ決ヲ爭フガ如キ事態ヲ生ゼ
ザル樣萬全ノ策ヲ講ジタシト考フ

三十一番（清水）　今日ノ如キ非常時ニ在リテハ
閣議ハ直截簡明ニシテ英斷ヲ要スルコト多
カルベク之ガ爲メニハ寧ロ閣僚ノ數ノ少キ
ヲ可トセズヤ現ニ歐洲戰爭當時閣僚ノ數ヲ
減少シタル國アリト聞ク然ルニ之ニ反シ本
案ノ如ク省ノ増設ヲ行ヒ而モ國務大臣ト各
省大臣トハ同一人ガ之ニ當ルニ於テハ夫レ
ダケ閣僚ノ數ヲ増スコトト爲ル近時新聞ノ
傳フル所ニ依レバ國務大臣ト各省大臣トヲ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

分離スルノ議アリト政府ニ於テハ該問題ヲ考慮セラレタルコトアリヤ

委員（船田）　唯今ノ御質問ニ對シテモ總理大臣ヨリ御答スベキ筈ナレドモ便宜本員ヨリ申上グベシ内閣制度革新ノ説ハ各方面ニ於テ相當ニ行ハレ居レリ各省大臣ノ數ヲ増ストキハ閣内統一上御説ノ如キ心配ハアリ政府ハ内閣制度全般ニ付折角考慮研究中ナルモ各省大臣ト國務大臣トノ分離ニ付テハ未ダ何等具體的ニ考慮シ居ラズ

三十一番（清水）　保險院ヲ特ニ新省ノ外局ト爲スノ必要奈邊ニ在リヤ

委員（船田）　保險院ノ管掌スベキ事務ハ現在ノ社會局ノ所掌タル社會保險ト遞信省ノ外局タル簡易保險局ニ於テ掌理スル簡易保險及郵便年金ニ關スル事務ニシテ孰レモ現業ヲ包有シ之ニ從事スル職員モ亦從テ多數ニ上レリ而モ此ノ事務タルヤ國民ノ體位向上ト福祉増進トヲ二大眼目トスル新設省（厚生省）ノ事務ト密接ナル關係アルニ由リ保險院ハ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

之ヲ同大臣ノ管理ニ屬セシムルト共ニ其ノ事務ノ性質上之ヲ外局ト爲スヲ適當ト考ヘタルナリ

議長（平沼）他ニ御發言ナキ故第二讀會以下ヲ省略シテ直ニ採決スベシ本案贊成ノ各位ノ起立ヲ請フ

（全員起立）

議長（平沼）全會一致可決セラレタリ

○

議長（平沼）次ニ日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約ノ效力延長ニ關スル議定書署名ノ件ヲ議題ニ供ス第一讀會ヲ開キ朗讀ヲ省略シテ直ニ審査報告ヲ爲サシム

報告員（村上）謹デ此ノ案件ヲ審査シタルニ昭和三年一月調印ノ日「ソ」兩國間漁業條約ハ其ノ最初ノ八年ノ有效期間ガ客年五月二十七日ヲ以テ滿了スルニ由リ帝國政府ニ於テハ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

此ノ機會ヲ利用シテ右條約ニ相當ノ修正ヲ加ヘント欲シ「ソ」國政府トノ間ニ交渉ヲ開始シタルモ右期日迄ニ其ノ交渉妥結ニ達セザリシニ由リ暫行的措置トシテ本院ノ御諮詢ヲ經テ客年五月二十五日兩國間ニ前陳條約ノ效力延長ニ關スル議定書ヲ締結シ右條約及其ノ附屬文書ノ效力ヲ客年十二月末日迄延長シ更ニ條約修正ノ交渉ヲ續行シタル結果客年十一月ニ至リ稍ク協議調ヒ協定文書ノ作成ヲ了シ帝國ニ在リテハ既ニ本院ノ御諮詢ヲ經御裁可ヲ得タルニ「ソ」國ガ俄ニ態度ヲ豹變シテ其ノ署名ヲ肯ゼザリシヲ以テ帝國政府ニ於テハ已ムナク臨機ノ措置トシテ本院ノ御諮詢ヲ經テ客年十二月二十八日再ビ兩國間ニ前陳條約ノ效力延長ニ關スル議定書ヲ締結シ右條約及其ノ附屬文書ガ本年十二月三十一日迄效力ヲ存續スベキコトヲ協定シタリ爾來帝國政府ハ「ソ」國政府ニ對シ前陳新協定ニ署名センコトヲ屢々督促シタルニ「ソ」國政府ニ於テハ始ハ客年新協定ノ署名

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ困難ナラシメタル事情未ダ解消セズト言ヒ後ニハ新協定ノ條項中修正ヲ要スルモノアリ別ニ對案ヲ呈示スベシト言ヒテ而カモ今ニ至ルモ尚之ヲ提出セズ到底急速ニ妥結ニ達スルノ見込ナキニ由リ帝國政府ニ於テハ已ムヲ得ズ三タビ現行條約ノ有效期間延長ニ關スル暫定取極ヲ締結センコトヲ「ソ」國政府ニ提議シ其ノ應諾ヲ得タルヲ以テ茲ニ本件ノ議定書ヲ作成シ兩國代表者ヲシテ之ニ署名セシメントスルモノニシテ此ノ議定書ノ要旨ハ前述ノ昭和三年一月調印ノ日「ソ」兩國間漁業條約及其ノ附屬文書ガ明年十二月三十一日迄效力ヲ存續スベキコトヲ協定スルニ在リ而シテ我ガ當局ノ辯明ニ依レバ競賣ニ依ラズシテ本邦人ニ貸付セラルル漁區二百八十二區ノ貸付ヲ繼續スルコト、「ソ」國國營企業漁區ノ漁獲標準高ヲ五百萬「プード」ニ制限スルコト及我方ヨリノ支拂金ハ其ノ換算率ヲ一「ルーブル」三十二錢五厘トシ之ヲ假拂トスルコトニ付テハ總テ前年ノ例ヲ踏

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

襲スルコトニ兩國當局者間ノ諒解成立セリトノコトナリ

按ズルニ本件ハ日「ソ」兩國間ニ新漁業條約ガ容易ニ成立ノ運ニ到ラザルニ由リ客年ノ例ニ倣ヒ臨機ノ措置トシテ現行條約ノ效力ヲ更ニ一年間延長スル旨ノ暫定取極ヲ締結セントスルモノニシテ當面ノ情勢ニ照シ已ムヲ得ザルノ措置ト認ムルノ外ナカルベク差當リ明年ニ於ケル我ガ漁業權ノ行使ニ付テハ兩國政府間ノ諒解ニ因リ支障ナカルベキ

旨ノ我ガ當局ノ辯明ニ信賴シ本件ハ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベシト思料ス

右謹デ審査ノ結果ヲ報告ス

三十番（石塚）　本官ハ此ノ機會ニ於テ外務大臣ノ御所見ヲ伺ヒタシ本案ハ日蘇漁業條約ノ效力延長ニ關スル第三回目ノ暫定取極ナルガ此ノ場合事情已ムヲ得ザルモノナリト考フ然シ過去ニ於ケル蘇國ノ態度ニ顧レバ今後ノ一年内ニ於テ蘇國ガ果シテ新條約ニ調印ヲ行フヤ否ヤ甚ダ疑ナキ能ハズ若シ本官

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ此ノ心配ガ杞人ノ憂ナラバ洵ニ幸ナリ昨年十一月蘇國ガ日獨防共協定ノ締結ヲ口實トシテ新條約ノ調印ヲ拒否シタルハ或ハ他ニ其レ以外ノ若クハ其レ以上ノ理由ガ存シタルニ非ズヤト憶測セラル蘇國ハ近ク其ノ漁業ヲ擧ゲテ國營ト爲サントストノ説アルモ北京條約ノ儼存スル以上左樣ノコトノ有リ得ベカラザルヤ勿論ナリ唯蘇國ノ如キ國際正義ノ觀念ニ乏シキ國家ニ於テハ將來如何ナル手段ヲ弄スルヤ其ノ點ニ付テハ充分警戒ヲ加ヘザルベカラズト考フルガ之ニ對スル外務大臣ノ御所見ハ如何大體ニテモ承ルコトヲ得バ幸ナリ

六番（廣田）　唯今ノ御質問ニ答フベシ蘇國ハポーツマス條約ノ規定ニ依リ日本國ニ與ヘタル漁業權ノ行使條件ニ關シ具體的取極ヲ爲スベキ義務ヲ負擔スルコトハ御承知ノ通リナリ唯蘇國ハ最近ノ國際情勢ニ因リ調印ヲ遷延セシメツアルモノニ外ナラズト思ハル今回モ成ルベク新條約ヲ調印セシムルコ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

トニ努力シ暫行取極ヲ締結スルニ付テハ其ノ有效期間ヲ無期限トセンコトヲ交渉シタルモ先方ノ容ルル所トナラズ已ムナク今次モ亦一年ヲ以テ有效期間トシタリ蘇國ニ於テハ今回新憲法ヲ制定シ個人企業ヲ許サザル方針ヲ執ルコトト爲リ爲メニ從來ノ條約ヲ其ノ儘承認スルコト出來ズト云フ其ノ意味ハ蘇國ノ企業ニハ從來國營ト個人企業トアリテ其ノ個人企業ガ本邦漁業者ト共ニ競賣ニ參加スルノ立前ナリシガ新憲法ヲ以テ其ノ個人企業ヲ認メズトノコトナリ蘇國ガ其ノ漁業ヲ總テ國營トスルコトニ關シテハ未ダ何等聞キ居ラザルモ「コオペラチーヴ」ヲ廢止スルコトガ斯ク誤傳サレタルニハ非ザルヤ蘇國ノ漁業ヲ個人企業ニ許サズ一切國營ト爲スコトハ「ポーツマス」條約ニ違反スルガ故ニ帝國ノ認メ難キ所ナリ本官ハ來年中ニハ是非蘇國ガ改正條約ニ對シテ調印ヲ爲ス樣努力シタシト考ヘ居レリ

議長（平沼） 他ニ御發言ナキ故第二讀會以下ヲ

省略シテ直ニ採決スベシ本案賛成ノ各位ノ起立ヲ請フ

（全員起立）

議長（平沼）全會一致可決セラレタリ

本日ハ之ニテ閉會ス

聖上入御

（午前十時五十五分閉會）

議長男爵平沼騏一郎

書記官長村上恭一

書記官 弦江李雄

武藤盛雄

枢密院

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

勅令第　號

各省官制通則中左ノ通改正ス

第一條中「鐵道及拓務」ヲ「鐵道、拓務及厚生」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

勅令第　號

厚生省官制

第一條　厚生大臣ハ國民保健、社會事業及勞働ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條　厚生省ニ左ノ五局ヲ置ク

體力局

衞生局

豫防局

社會局

勞働局

第三條　體力局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　體力向上ノ企畫ニ關スル事項

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

二　體力向上ノ施設ニ關スル事項
三　體力調査ニ關スル事項
四　體育運動ニ關スル事項
五　姙産婦、乳幼兒及兒童ノ衞生ニ關スル事項

第四條　衞生局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　衣食住ノ衞生ニ關スル事項
二　衞生指導ニ關スル事項
三　醫事及藥事ニ關スル事項
四　其ノ他國民保健ニ關スル事項ニシテ他ノ主管ニ屬セザルモノ

第五條　豫防局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　傳染病、地方病其ノ他ノ疾病ノ豫防ニ關スル事項

二　檢疫ニ關スル事項
三　精神病ニ關スル事項
四　民族衞生ニ關スル事項

第六條　社會局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　社會福利施設ニ關スル事項
二　救護及救療ニ關スル事項
三　軍事扶助ニ關スル事項
四　母子及兒童ノ保護ニ關スル事項
五　其ノ他社會事業ニ關スル事項
六　職業ノ紹介其ノ他勞務ノ需給ニ關スル事項

第七條　勞働局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一　勞働條件ニ關スル事項
二　工場及鑛山ニ於ケル勞働衛生ニ關スル事項
三　國際勞働事務ニ關スル統轄事項
四　其ノ他勞働ニ關スル事項

第八條　厚生省ニ勞働局參與十五人以内ヲ置キ勞働局ノ局務ニ參與セシム
勞働局參與ハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ
學識經驗アル者ノ中ヨリ命ゼラレタル參與ノ任期ハ三年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ
參與ハ勅任官ノ待遇トス但シ本官ヲ有スル者ニ付テハ本官ノ受クル待遇ニ依ル

第九條　厚生書記官ハ專任十六人ヲ以テ定員トス

第十條　厚生省ニ事務官專任二十五人及理事官專任三人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十一條　厚生省ニ技師專任三十一人ヲ置ク奏任トス但シ内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十二條　厚生省ニ體育官專任五人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ體育運動ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條　厚生屬ハ專任百二十一人ヲ以テ定員トス

第十四條　厚生省ニ技手專任二十四人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十五條　厚生省ニ體育官補專任五人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ體育運動ニ關スル事務ニ從事ス

第十六條　厚生省ニ工場監督官、鑛務監督官及調停官ヲ置キ書記官、事務官、理事官又ハ技師

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ以テ之ニ充ツ

工場監督官ハ上官ノ命ヲ承ケ工場法施行、鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齢法施行竝ニ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ於ケル退職積立金及退職手當法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

鑛務監督官ハ上官ノ命ヲ承ケ鑛夫ニ關スル事務、鑛山ニ於ケル勞働衛生ニ關スル事務、鑛業及砂鑛業ニ於ケル工業勞働者最低年齢法施行ニ關スル事務竝ニ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ニ於ケル退職積立金及退職手當法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

調停官ハ上官ノ命ヲ承ケ勞働爭議調停ニ關スル事務ヲ掌ル

第十七條　厚生省ニ工場監督官補、鑛務監督官補及調停官補ヲ置キ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

工場監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工場法施行、鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齢法施行竝ニ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ於ケル退職積立金及退職手當法施行ニ關スル事務ニ從事ス

鑛務監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鑛夫ニ關スル事務、鑛山ニ於ケル勞働衛生ニ關スル事務、鑛業及砂鑛業ニ於ケル工業勞働者最低年齢法施行ニ關スル事務竝ニ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ニ於ケル退職積立金及退職手當法施行ニ關スル事務ニ從事ス

調停官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ勞働爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

社會局官制ハ之ヲ廢止ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

勅令第　　號

保險院官制

第一條　保險院ハ厚生大臣ノ管理ニ屬シ左ニ掲グル事務ヲ掌ル

一　健康保險、勞働者災害扶助責任保險其ノ他ノ社會保險ニ關スル事項

二　簡易生命保險及郵便年金ニ關スル事項

三　前二號ニ掲グル保險ノ制度ノ企畫竝ニ被保險者保健施設ノ企畫及統轄ニ關スル事項

第二條　保險院ニ左ノ職員ヲ置ク

長官		勅任
局長	三人	勅任
理事	專任一人	勅任
書記官	專任十人	奏任

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

事務官　専任十五人　奏任
理事官　専任一人　奏任
簡易保險事務官　専任二十三人　奏任
技師　専任十人　奏任
屬　専任二百八十九人　判任
簡易保險書記　専任千三百七十四人　判任
技手　専任四十二人　判任
簡易保險書記補　専任二千二百三十五人　判任

前項職員ノ外保健技師專任六十五人ヲ置ク奏任官ノ待遇トス

第三條　保險院ニ左ノ三局ヲ置ク

總務局
社會保險局
簡易保險局

總務局ニ於テハ人事、文書及會計ニ關スル事務、保險數理ニ關スル事務、第一條第三號ニ掲グル事務竝ニ他ノ主管ニ屬セザル事務ヲ掌ル

社會保險局ニ於テハ第一條第一號ニ掲グル事務ヲ掌ル

簡易保險局ニ於テハ第一條第二號ニ掲グル事務ヲ掌ル

厚生大臣ハ簡易保險局ノ事務ヲ分掌セシムル爲必要ト認ムル地ニ簡易保險局ノ支局ヲ設クルコトヲ得

簡易保險局ノ支局ノ名稱、位置、管轄區域及事務取扱ノ範圍ハ厚生大臣之ヲ定ム

支局長ハ書記官、事務官又ハ簡易保險事務官ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　長官ハ厚生大臣ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ統理シ部下ノ職員ヲ指揮監督シ判任官以下

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ進退ヲ專行ス

第五條　局長ハ長官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第六條　理事ハ上官ノ命ヲ承ケ簡易生命保險及郵便年金ニ關スル事務ヲ掌理ス

第七條　書記官、事務官及理事官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第八條　簡易保險事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ簡易生命保險及郵便年金ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第十一條　簡易保險書記及簡易保險書記補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ簡易生命保險及郵便年金ニ關スル事務ニ從事ス

第十二條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十三條　保健技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ヲ掌ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

簡易保險局官制ハ之ヲ廢止ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

勅令第　號

内務省官制中左ノ通改正ス

第一條中「衛生」ヲ削ル

第三條中「十七人」ヲ「十四人」ニ改ム

第四條中「六局」ヲ「五局」ニ改メ「衛生局」ヲ削ル

第八條　削除

第十條中「專任内務事務官二十一人及專任内務理事官五人」ヲ「專任内務事務官十九人及專任内務理事官四人」ニ改ム

第十二條中「專任技師二十一人」ヲ「專任技師十五人」ニ「二人」ヲ「一人」ニ「二百十九人」ヲ「二百一人」ニ改ム

附　則

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第　號

遞信省官制中左ノ通改正ス

第一條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

遞信大臣ハ遞信局及郵便局ニ於テ掌ル簡易生命保險及郵便年金ニ關スル事務ヲ管理ス

第一條ノ二中「從事員ノ養成保健及」ヲ削ル

第二條中「二十人」ヲ「二十二人」ニ改ム

第三條中「電務局」ノ次ニ「管理局」ヲ加フ

第四條ノ三ヲ第四條ノ四トス

第四條ノ三　管理局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　簡易生命保險ニ關スル事項

二　郵便年金ニ關スル事項

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三　從事員ノ保健及養成ニ關スル事項

第七條中「遞信省事務官專任四十七人」ヲ「遞信省事務官專任四十九人」ニ改ム

第九條中「專任四百四十三人」ヲ「專任五百四十六人」ニ改ム

第十條中「專任技手百九十八人」ヲ「專任技手二百二人」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第　號

奏任文官特別任用令中左ノ通改正ス

「傷兵院事務官
「社會局理事官」、國立癩療養所事務官　及「簡易保險局事務官」ヲ削リ「拓務理事官」ノ
國立結核療養所事務官」

次ニ「厚生理事官
保險院理事官
保險院簡易保險事務官
傷兵院事務官　ヲ加フ
國立癩療養所事務官
國立結核療養所事務官」

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

勅令第　　號

判任文官特別任用令中左ノ通改正ス

第六條中「簡易保險局書記補」ヲ削リ「北海道廳河川監守」ノ次ニ「保險院簡易保險書記補」ヲ加フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

勅令第　號

工場法施行令中左ノ通改正ス

「内務大臣」ヲ「厚生大臣」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

勅令第　號

産婆規則中左ノ通改正ス

「内務大臣」ヲ「厚生大臣」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

極秘

日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約ノ第三回效力延長ニ關スル議定書

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

議定書

千九百二十八年一月二十三日署名セラレ、千九百三十六年五月二十五日及同年十二月二十八日夫々署名セラレタル議定書ニ依リ效力延長セラレタル日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約ノ存續期間ハ千九百三十七年十二月三十一日前ニ新條約締結セラレザルベキニ因リ千九百三十七年十二月三十一日滿了スルニ因リ又

大日本帝國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ政府ハ千九百二十八年一月二十三日署名セラレタル日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約及附屬文書ガ千九百三十八年十二月三十一日ニ至ル迄效力ヲ存續スベキコトヲ茲ニ協定ス

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本議定書ニ署名セリ

昭和十二年十二月　日卽チ千九百三十七年十二月　日「モスコー」市ニ於テ本書二通ヲ作成ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

PROTOCOL

CONCERNING THE THIRD PROLONGATION OF THE DURATION OF THE FISHERY CONVENTION BETWEEN JAPAN AND THE UNION OF SOVIET SOCIALIST REPUBLICS.

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

PROTOCOL.

Whereas the term of duration of the Fishery Convention between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics, signed on January 23rd, 1928, and prolonged by the Protocols signed, respectively, on May 25th, 1936 and on December 28th of the same year, comes to an end on December 31st, 1937; and

Whereas a new Convention will not be concluded before December 31st, 1937;

The Governments of Japan and the Union of Soviet Socialist Republics hereby agree that the Fishery Convention between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics as well as the documents annexed thereto, signed on January 23rd, 1928, shall remain in force until December 31st, 1938.

In witness whereof the undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed the present Protocol.

Done in duplicate in the City of Moscow on the day of the 12th month of the 12th year of Syōwa, corresponding to December , 1937.

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/